

## 第4学年 音楽科学習指導案

は組 男子17名 女子18名 計35名  
指導者 吉野裕子

### 1 題材 リズムにのってⅠ

教材 ◎「ブラジル」 バホーゾ 作曲  
「いろいろな木の実」 中山知子 作詞 西インド諸島民謡（本時主教材）

### 2 題材について

#### (1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、第3学年題材「リズムを感じて」において、拍子やリズムの特徴を感じ取って拍の流れにのって表現したり、反復や変化などの音楽の仕組みを生かしたリズムづくりを通して、拍の流れやまとまりのあるリズムが生み出す面白さを味わったりしてきている。さらに、子どもたちは、曲の感じに合わせてリズムを演奏したり、いろいろなリズムを組み合わせたりしながら表現したいという欲求が高まってきている。

そこで、本題材では、これまで身に付けてきた拍子やリズムの特徴を感じ取りながら拍の流れにのって表現する活動を通して、リズムの組合せに関心を持ち、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら進んで表現しようとする態度を育てるとともに、リズムの組合せを工夫する能力を高めたり、拍の流れにのってリズムフレーズやリズム伴奏を演奏する能力を高めたりすることをねらいとして、本題材「リズムにのってⅠ」を設定した。

ここでの学習は、音楽の仕組みを生かしてリズムアンサンブルをつくったり、それらを自分の声を用いてつくったリズムフレーズを重ねたり組み合わせたりする活動を通して、拍の流れにのって演奏する能力を育てる第5学年「リズムにのってⅡ」の学習へと発展していくこととなる。

#### (2) 指導の基本的な立場

拍の流れにのってリズムフレーズやリズム伴奏を演奏する技能を高めるためには、様々なリズムにふれさせたり、リズムの特徴を感じ取って、リズムが生み出す音楽のよさを味わえるようにしたりすることが効果的である。特に、この期の子どもたちには、自分のリズムやそれぞれの楽器の役割を意識して、音を合わせる喜びを味わうようにすることが大切である。

そこで、本題材の展開に当たっては、**曲想とリズムの関わり**といった視点で音楽を捉え、**リズムに着目できるような課題設定を行うこと**で、**リズムの働きがもたらす曲想の変化を感じ取って表現に生かすことができるようにする**。

具体的には、まず、「ブラジル」を取り上げる。この教材は、陽気な旋律に合わせてラテン打楽器の音色や特徴的なリズムを感じ取りやすい楽曲である。そこで、ここでは、打楽器を演奏するまねをしたり、音楽に合わせて体を動かしたりしながら「ブラジル」を聴き、リズムの面白さや打楽器のリズムがもたらす音楽のよさを味わうことができるようにする。

次に、「いろいろな木の実」を取り上げる。この教材は、のびやかな旋律[A]と歯切れのよい旋律[B]で構成されており、それぞれの曲想に合わせて歌とリズム伴奏を合わせる面白さを感じる取ることができる楽曲である。また、のびやかな旋律とサンバのリズムの重なりが、「ブラジル」と曲想が似ている部分があるため、リズム伴奏の活動と結び付けるのに適している。曲想の違いを感じ取らせて、旋律に合わせて歌い方やリズム伴奏を工夫するのに適している。そこで、楽器の組合せ方を工夫することで、様々な音色の違いを感じ取ることができたり、主旋律の曲想の違いに合わせて、リズムの組合せ方を工夫したりすることができるようにする。

これらの学習を通して、子どもたちは、**リズムがもたらす音楽のよさを味わいながら拍の流れにのって表現したり鑑賞したりすることができるようになり、「リズム」、「拍の流れ」といった音楽を形づくっている要素の働きや特徴について他者と共有・共感しながら、音楽経験を生かしながら様々な音楽に親しもうとする態度を養うことができる**。

このような学習を積み重ねることで、感性が生まれ、協働する喜び、多様な価値を尊重する態度や、豊かな情操が養われていく。

(3) 子どもの実態（調査対象 4年は組 男子17名 女子18名 計35名）

本学級の子どもの実態は次の通りであった。

①	リズムにのって歌ったり、演奏したりすることは、楽しいですか。
	はい (32) いいえ (3)
②	その理由を教えてください。(複数回答)
	【「はい」の理由】 ・気持ちがいいから (17) ・音楽が好きだから (6) ・体が自然に動くから (8) ・友達と協力できるから (1) ・ピアノが好きだから (1) ・お互いの感想を言い合うことができるから (1) ・練習をすると、上手になるから (2) ・みんなを笑顔にできるから (1) 【「いいえ」の理由】 ・歌うのが苦手だから (3)
③	リズムにのって歌ったり演奏したりするためには、どんなことに気をつけたらいいと思いますか。
	・リズムをよく聴いて歌う。(7) ・リズムを間違えない。(3) ・みんなで一緒にの速さで歌う。(2) ・声をそろえる。(1) ・伴奏に合わせる。(4) ・姿勢に気をつける。(3) ・指使いに気をつける。(2) ・周りの様子や歌の歌詞の様子を想像する。(3) ・心をつににする。(2) ・拍をちゃんと聴き取るとよい。(2) ・落ち着いて聴く。(1) ・遅れないようにする。(1) ・何拍子でできているか確認してから歌う。(1) ・音の高さや低さ。(2) ・強弱に気をつける。(4) ・何度も練習する。(1) ・覚える。(1) ・先生の真似をする。(1)
④	教師のリズムを模倣してみましょう。
	ア  ・拍の流れにのって正しく演奏できる。(35) イ  ・拍の流れにのって正しく演奏できる。(35) ウ  ・拍の流れにのって正しく演奏できる。(10) ・拍の流れにのって正しく演奏できない。(25)

①②から、子どもたちの多くが拍の流れにのって表現することへの楽しさを感じていることが分かる。拍の流れにのることによって、自然に体が動いて楽しい気分になったり、友達と合わせることで一体感を感じたりするなど、これまでの合奏の経験を基に楽しさを実感している。一方で、「楽しくない」と答えた子どもたちは、歌を歌うことに苦手意識があるために、音楽表現の技能に自信をもつことができていないことが要因であると考えられる。

③から、友達の音や伴奏の音をよく聴くことで、互いの音が合わせられることに気付いている子どもが多いことが分かる。また、強弱やリズムなど、音楽の要素に着目して表現していくことが大切だと感じている子どもも多い。一方で、拍の流れを意識することへの気付きは少ない。その要因として、拍の流れにのると、全体のリズムが合わせやすいというよさを十分に実感できていないことが要因であると考えられる。

④から、休符がない規則的なリズムは演奏できるが、休符等が入った不規則なリズムは、拍の流れを感じ取りづらく、演奏することが難しいことが分かる。

(4) 指導上の留意点

ア 課題把握・課題追求Ⅰの過程では、リズムがもたらす音楽の楽しさやよさを味わえるようにするために、リズム伴奏がある範奏とリズム伴奏がない範奏を比較鑑賞させ、リズム伴奏の効果を実感できるようにする。また、拍の流れにのって正しいリズムで演奏できるようにするために、リズムを言葉に表して口ずさむなど、主旋律に合わせて演奏できるようにする。

イ 課題追求Ⅱの過程では、曲想に合ったリズム伴奏を工夫することができるようにするために、**A**と**B**の旋律の感じの違いを基に、リズムの組合せ方を考えることができるようにする。

ウ まとめの過程では、様々な音楽に親しもうとする態度を養うために、発表の際は、他のグループの表現のよさを共有・共感しながら鑑賞する場を設定する。

### 3 目 標

- (1) リズムの組合せに関心を持ち、拍の流れによって表現できているかを振り返りながら、進んで活動に取り組むことができる。
- (2) リズムの組合せを考えながら、曲想に合わせてリズム伴奏を工夫したり、リズムがもたらす音楽のよさを見いだしたりすることができる。
- (3) 拍の流れによってリズムフレーズやリズム伴奏を演奏することができる。

### 4 指導計画（全7時間）

過程	思いや意図を連続・発展させる心の高まり	教材	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
課題把握	リズム伴奏のある・なしで曲の感じ方が変わるな。	「ブラジル」①②	2つの曲の感じのちがいはどこからくるのだろうか。 ○ 「ブラジル」を聴き、曲の感じや演奏している楽器の音色について話し合う。 ○ サンバのリズムに合わせて、身体反応をする。 ○ ペアになり、手拍子や足拍子で4拍子のリズム模倣やリズム問答をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ リズムがもたらす音楽の楽しさやよさを味わえるようにするために、リズム伴奏がある範奏とリズム伴奏が無い範奏を比較鑑賞させ、リズム伴奏の効果を実感できるようにする。</li> <li>○ 子どもたちにサンバの雰囲気味わわせるために、ラテン楽器を準備し、簡単な鳴らし方を説明する。</li> <li>○ 拍の流れによって正しいリズムで演奏できるようにするために、リズムを言葉に表して口ずさむ活動を取り入れる。</li> <li>○ 拍の流れによって演奏できるようにするために、旋律の拍子を体で感じながら演奏できるようにする。</li> <li>○ リズムによって、歌うことができるようにするために、シンコペーションのリズムに気を付けて歌わせるようにする。</li> <li>○ 曲の仕組みを理解するために、楽譜を基に、それぞれの声部の役割を確認する。</li> <li>○ 技能差に対応するために、拍の流れによって演奏することが難しい子には、教師が拍を示したり、体で拍をとりながら演奏したりしてもよいことを伝える。</li> <li>○ 曲想に合ったリズム伴奏を工夫することができるようにするために、<b>A</b>と<b>B</b>の旋律の感じの違いを基に、リズムの組合せ方を考えることができるようにする。</li> <li>○ 最終発表に向けて、自分たちの演奏が友達のアドバイスをもとに、どのように変わったか述べられるようにしておく。</li> <li>○ 鑑賞する側は、音量のバランスや、使っている楽器に着目したアドバイスができるようにする。</li> <li>○ 様々な音楽に親しもうとする態度を養うために、発表の際は、他のグループの表現のよさを共有・共感しながら鑑賞する場を設定する。</li> </ul>
課題追求①	それぞれの打楽器が決まったリズムを繰り返して、伴奏になっているんだな。やってみてみたいな。		○ 「ばんそう」の範奏を聴き、演奏している楽器の音色やリズムについて話し合う。 ○ グループで役割を決め、演奏する。 ○ グループごとに発表する。	
課題追求②	途中で曲の感じが変わる曲だな。	○ 「いろんな木の実」を聴き、曲想の違いについて話し合う。 ○ 旋律の特徴に合うように、歌い方を工夫する。		
	リズムを重ねると、にぎやかな感じが出るな。	リズムによってえんそうしよう。		
	旋律に合わせて、組合せを変えてみると、曲の感じの違いが出て面白いな。	リズムにのってえんそうしよう。		
	もっとよりよくするために友達に聴いてもらって、アドバイスをもらいたいな。	○ グループごとに役割を決めて、演奏する。 ○ 同じパートごとに、リズムを確かめながら演奏する。 ○ 中間発表・鑑賞する。 ○ さらに工夫することを話し合う。		
	いろいろなリズムの組合せがあって面白いな。	曲の感じに合ったリズムばんそうにしよう。(本時) ○ 発表での反省を基に、さらに練り上げる ・ 歌に合わせる。 ・ さらに工夫することを話し合う。 ○ 中間発表で友達からもらったアドバイスをもとに最終的な確認しながら演奏をする。 ○ 相互発表・鑑賞する。 ○ 学習のまとめをする。		
まとめ	互いの表現のよさを見つけながら、グループの合そうの最終発表をしよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽器の組合せを変えると、曲の感じの違いを表すことができた。</li> <li>・ これからもいろんな音楽のリズムに気を付けて聴いてみたいな。</li> </ul>		

## 5 本 時 (6 / 7)

### (1) 目 標

曲の感じとリズムとのかかわりに関心を持ち、リズムの組合せを考えながら、リズム伴奏を工夫することができる。

### (2) 本時の展開に当たって

本時では、リズムの組合せがもたらす曲想の変化を感じ取って、リズム伴奏を工夫することができるようにするために、既習の鑑賞曲である「ブラジル」のリズム伴奏の仕組みを想起させる。また、自分の思いや意図を明確にもって表現できるようにするために、「曲想に合ったリズムの組合せ」を工夫する観点に設定し、思いや意図を可視化しながら活動できるようにする。

### (3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時 間	教 師 の 具 体 的 な 働 き かけ
課題把握	1 「いろんな木の実」を聴き、前時までの学習を振り返る。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AとBでは、旋律の感じが変わったね。</li> <li>・ リズム伴奏も、ずっと同じではなく変えてみたいな。</li> </ul>	(分) ↑ 8	○ リズム伴奏の工夫を「リズムの組合せ」という視点で捉えることができるようにするために、前時までの活動を振り返り、曲想に合わせて、歌い方を工夫したことを想起させる。
課題追求	2 本時の学習について話し合う。 曲の感じに合ったリズムばんそうにしよう。  3 グループごとに、リズムの組合せを考え、試しの演奏をする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【組合せ方の例】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれのリズムを1人ずつつなげる。</li> <li>・ 2人ずつ重ねて交互に演奏する。</li> <li>・ 全員でリズムを重ねて演奏する。</li> <li>・ 1人からだんだん人数を増やして重ねる。</li> </ul> </div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     比較の観点：リズムの組合せ                 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>A</b>の曲の感じ ・ のびやか                 </div> <div style="font-size: 2em;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>B</b>の曲の感じ ・ 歯切れのよい                 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>のびやかな旋律に合わせて、にぎやかになるように全員のリズムを同時に組み合わせようかな。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>歯切れのよい旋律に合わせて、似ているリズムの楽器を組み合わせようかな。</p> </div> </div>	↓ 30	○ リズムの組合せに着目させるために、「ブラジル」のリズム伴奏の仕組みについて想起させる。 ○ 組み合わせたリズムによって、曲想と合った表現が実現できているかを確認するために、実際に演奏しながらリズムの組合せを吟味させる。 ○ リズムの多様な組合せ方やそこから生み出される音の重なりよさを見いだすことができるようにするために、様々な組合せ方を全体で共有して自分たちの表現に生かすことができようにする。 ○ 自分が演奏するところを把握しやすくするために、グループごとに楽譜カードを操作させて可視化できるようにする。 ○ 思いや意図をもって演奏できるようにするために、自分たちの表現の意図を発表してから演奏するようにする。
相互発表・鑑賞	4 相互発表・鑑賞する。  <p>いろいろな組合せ方があるとおもしろいね。</p>  <p>○○班は、私たちと違う（同じ）組合せ方だな。</p>	↓ 7	○ 自他のよさを見だし、様々な表現に親しむことができるようにするために、他のグループの表現のよさを見つけながら鑑賞するよう促す。 ○ 本時の学習を生かしながらか見通しをもって次時の学習に取り組ませるために、「次の学習でどんなことをしていきたいかな」と発問し、子どもたちの思いや願いを高めるようにする。
まとめ	5 学習のまとめをし、次時への見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リズムの組合せが変わると、曲の感じも変わったよ。</li> <li>・ 歌とリズム伴奏の音量のバランスを工夫して演奏してみたいな。</li> </ul>	↓	